

学びの共同体をめざす犬山市の 教育改革と保護者の意識実態

西 口 利 文
杉 江 修 治

問題と目的

愛知県犬山市では、2001年度より、「学びの学校づくり」をめざした義務教育改革が進められている（犬山市教育委員会，2003）。市費採用による多数の非常勤教員の加配による少人数授業やチームティーチングの実施，副教本づくりとその活用，二学期制の導入，少人数学級の実現など，授業改善と直接関わるさまざまな試みがなされてきている。また，各校内での自主研修会とその公開，市内有志教員による授業研究会，実践研究を全国に発信する授業交流会など，教員相互の実質的研修装置も多く準備されてきている。さらには，市教育委員会等が主催するシンポジウムが継続的に開催され，犬山市の教育改革の現状を，市の内外へと公開するとともに，そのあり方についての議論を活発に行ってきた。

犬山市によるこうした教育改革の取り組みは，2004年度で4年目を迎えることとなった。この取り組みの実態については，マスコミを通じてもしばしば取り上げられており，市内にとどまらず，全国的に注目を集めてきた。犬山市内に子どもを持つ保護者は，そうした報道はもちろん，学校からの情報や子どもからの直接的な声を介して，教育改革に対する認識が

進みつつあるはずである。結果として、保護者たちの内面には、教育改革に対する関心や、その効果についての現時点での評価、あるいは子どもの学びを支援する方法についての考え方など、さまざまな意識、態度が形成されているものと考えられることができる。

犬山の教育改革では、その出発点で出された文書『学びの学校づくりを目指す犬山プラン』に、「子ども・教師・保護者・地域が学び合う場としての『学びの共同体』の実現」が改革の主要な目標の一つとして掲げられている。「保護者・地域」に関しては、「学校は、子どもの学びを支援するために、保護者や地域の人々が参加して学び合う場である」と規定した後、次のような改革の方向性が謳われている。

○ 子どもの教育活動に参加して学び合う

保護者、地域の人々が教育活動に参加することは、保護者と地域の人々が学校と共同して子どもを育てることである。保護者や地域の人々が学校の教育活動に参加することは、次のねらいをもつ。

- ・保護者と教師の連帯を生むための連携作業の場とし、我が子中心の保護者の意識を我が子を含めた学校改善に向けていく。
- ・授業の活性化を図り、質の高い体験学習や探究活動を子どもにさせるために、学校の教育活動や部活動の指導に参加してもらい、子どもだけでなく、保護者や地域の人々にも学ぶ機会とする。

○ 学校施設・設備を活用して学び合う

学校を地域における生涯学習の拠点の一つとして考え、地域の人々が学校施設（学校図書館やスポーツ施設）を活用できるように改善して、施設を地域に開放する。

改革の経過の中で、見直すべき内容や表現もあると思われる記述であるが、子どもが育つ環境としての家庭と地域の重要性を指摘し、子どもの育ちへの支援者としての、保護者と地域のパートナーシップに自覚を促す働きかけの重要性が改革の一つの柱になっていることは明らかである。

では、実際に保護者たちは、自分たちの町の教育改革を、今、どのよう

に受け止めているのであろうか。また、子どもの教育に対して、いかなる意識を持っているのであろうか。そこには学校とともに子どもの育ちを支えるパートナーシップは育っているものであろうか。

これまで、地方からの教育改革のもとで、保護者たちが抱く上記のような意識実態について明らかにする調査は、国内を見渡してもほとんど行われていない。犬山市においても、改革への評価に領域を限った調査にとどまってきた（仲・杉江，2002；谷口・杉江・仲，2004）。そこで本研究では、犬山市の教育改革についての保護者の考えや意識について、彼らのパートナーシップへの意識を含めて、その実態を記述することを主たる目的とした。また、家族の中の子どもの構成、保護者のPTA 役員の経験年数、犬山市居住年数といった要因によって、教育改革に対する考えや意識の違いがみられるかについても検討を行うことにしたい。

方 法

被調査者 愛知県犬山市内の小学校3年生，6年生，中学校2年生を子どもに持つ保護者448名。

質問紙 教育改革への関心や期待，教育改革への積極的関与，教育改革の効果の実感，教育改革に対する具体的な要望，子どもの学びへの支援方法に関する考え方など，犬山市の教育改革に関連した保護者の意識をたずねるための50項目を作成した（Table 1）。各項目への回答は，5件法（「5－ひじょうにあてはまる」「4－ややあてはまる」「3－どちらともいえない」「2－あまりあてはまらない」「1－まったくあてはまらない」）によって求めた。フェイスシートには，回答者の性別，年齢，家族構成（家族の年齢および学年），犬山市への居住年数，PTAの役員経験年数を尋ねるための記入欄を設けた。

質問紙は，学校から児童・生徒を介して保護者に配布した。協力を得た学校は，小学校2校，中学校2校の計4校である。地域の偏りをできるだけなくすために，調査協力校は小学校，中学校ともに市街地の学校と郊外の学校から各1校を選んだ。なお，質問紙への記入者となる保護者の続柄

Table 1 教育改革に対する保護者の意識をたずねる項目

-
- 1 子どもたちが、地域で行う活動に積極的に参加できるように支援したい。
 - 2 教育改革に関して、保護者向けにもっと説明が必要である。
 - 3 犬山の教育改革に対して、強い関心をもっている。
 - 4 これからの社会をよくするためには教育改革が重要な役割を果たす。
 - 5 地域で行う活動を通じて子どもたちを知ることは、大人の成長にとっても重要なことだと思う。
 - 6 教育改革によって、先生の指導の力量が高まったと思う。
 - 7 授業で使用するための独自の副教本づくりを、これからも積極的にすすめてほしい。
 - 8 授業を行う先生の人数を増やしてほしい。
 - 9 犬山市の教育改革の情報を、積極的に知ろうと思っている。
 - 10 現在の犬山の教育改革は、子どもの健全な成長につながる取り組みである。
 - 11 地域の大人たちが連携しながら、子どもたちの学びを支援すべきである。
 - 12 教育改革によって、子どもたちの学力がより高まってきていると思う。
 - 13 詰め込みでもいいから、高い学力に到達できることに主眼を置いた教育改革をすすめてほしい。
 - 14 教育改革のもとで、子どもが通う学校が良い学びの場となっていると思う。
 - 15 これからの教育改革の取り組みに向けて、積極的に学校に参加できる機会がほしい。
 - 16 人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい。
 - 17 今の地域は子どもが育つ環境として適切である。
 - 18 学校で実施される公開授業には、積極的に参加している。
 - 19 教育改革による学校の取り組みは、子どもたちの要求に合っている。
 - 20 自分の子どもには、世間の人たちの幸せのために貢献することを目指して学んでもらいたい。
 - 21 教育改革をすすめることで、子どもたちの望ましい成長が期待できる。
 - 22 保護者や地域の大人を、学校での活動の場にもっと参加させてほしい。
 - 23 教育改革によって、先生の指導方法が良い方向に変わったと思う。
 - 24 30人学級の実現をすすめてほしい。
 - 25 子どもたちが、地域活動に積極的に参加できるための具体的な取り組みをしている。
 - 26 教育改革への意見を保護者が出せるように、学校で懇談会をもっと開いてもらいたい。
 - 27 現在の犬山のような教育改革をこれからも積極的にすすめてほしい。
 - 28 ティームティーチングをこれからも積極的にすすめてほしい。
 - 29 教育改革のもとで、学校に対する信頼感が高まった。
 - 30 学校では、毎日宿題を出してもらいたい。
 - 31 先生が個別指導を行えるような授業を、積極的にすすめてほしい。
 - 32 4、5人の子どもたちのグループで共に学びあえる授業を、積極的にすすめてほしい。
 - 33 現在の犬山の教育改革は、豊かな社会づくりのための重要な取り組みである。
 - 34 能力別にクラス分けを行う授業を、積極的に実施してほしい。
 - 35 学校の教育施設を、もっと充実してほしい。
 - 36 将来の高校・大学への入試を念頭に置いた教育改革をすすめてほしい。
 - 37 これまで取り組まれてきた犬山市の教育改革の具体的な内容について知っている。
 - 38 子どもにとってゆとりのあるかたちで教育改革をすすめてほしい。
 - 39 教育改革のもとで、先生たちに対する信頼感が高まった。
 - 40 現在の犬山の教育改革に不安を感じている。
 - 41 一人ひとりの大人が、地域の子どもたちを知ることにより、自らの子育てにも生かすことができると思う。
 - 42 教育改革によって、子どもたちは学校生活を楽しむようになったと思う。
 - 43 子どもたちが自宅や地域で学べるように、学校はもっと協力すべきである。
 - 44 教育改革については、学校や市の教育委員会に任せていけばよい。
 - 45 少人数授業を、これからも積極的にすすめてほしい。
 - 46 現在の犬山の教育改革には別の選択肢があると思う。
 - 47 教育改革のもとで、子どもたちの学習意欲が高まってきていると思う。
 - 48 自分の子どもには、自分自身の幸福を実現するために学んでもらいたい。
 - 49 教育改革のもとで、先生たちの教育に対する熱意を感じる。
 - 50 今の地域に住む大人たちは、協力して地域の子どもを育てようとしている。
-

については、調査実施者側からは指定しなかった。

結 果

被調査者の属性 有効回答者数は448名（男性57名、女性389名、不明2名）であった。子どもとの続柄、年齢、PTAの役員経験年数、犬山市居住年数はTable 2のとおりであった。性別や続柄については、女性、母親への偏りがきわめて多かった。そのため、以下の分析では、性別や続柄別の分析は行わないこととした。

Table 2 保護者の属性

属性	カテゴリー	人数	割合
有効回答者		448名	100%
性別	男性	57名	12.7%
	女性	389名	86.8%
	不明	2名	0.4%
続柄	父	57名	12.7%
	母	383名	85.5%
	祖母	2名	0.4%
	不明	6名	1.3%
年齢	～34歳	30名	6.7%
	35～39歳	135名	30.1%
	40～44歳	184名	41.1%
	45～49歳	68名	15.2%
	50歳～	18名	4.0%
	不明	13名	2.9%
平均	40.9歳		
PTAの役員経験年数	経験なし	227名	50.7%
	1年	128名	28.6%
	2年	60名	13.4%
	3年	17名	3.8%
	4年	7名	1.6%
	5年	2名	0.4%
	8年	1名	0.2%
	不明	6名	1.3%
犬山市居住年数	～3年（改革後に転入）	23名	5.1%
	4～9年	63名	14.1%
	10～19年	219名	48.9%
	20～29年	31名	6.9%
	30～39年	56名	12.5%
	40年以上	49名	10.9%
不明	7名	1.6%	
平均	18.7年		

保護者の意識をたずねる項目への回答の平均値および標準偏差 犬山市の教育改革に対する保護者の意識をたずねた50項目への回答に対して、5件法の段階に応じた点数を割り振って集計し、被調査者全体の平均値ならびに標準偏差を算出した。Table 3に平均値の高い項目から順に並べて

Table 3 教育改革に対する保護者の意識をたずねる項目への回答の平均値および標準偏差

問題番号	項目	被調査者全体	
		平均値	標準偏差
		448名	
45	少人数授業を、これからも積極的にすすめてほしい。	4.28	(0.82)
24	30人学級の実現をすすめてほしい。	4.27	(0.85)
16	人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい。	4.19	(0.78)
20	自分の子どもには、世間の人たちの幸せのために貢献することを目指して学んでもらいたい。	4.04	(0.75)
28	ティームティーチングをこれからも積極的にすすめてほしい。	4.00	(0.82)
5	地域で行う活動を通じて子どもたちを知ることは、大人の成長にとっても重要なことだと思う。	3.99	(0.79)
35	学校の教育施設を、もっと充実してほしい。	3.99	(0.80)
31	先生が個別指導を行えるような授業を、積極的にすすめてほしい。	3.96	(0.86)
48	自分の子どもには、自分自身の幸福を実現するために学んでもらいたい。	3.92	(0.88)
2	教育改革に関して、保護者向けにもっと説明が必要である。	3.92	(0.84)
4	これからの社会をよくするためには教育改革が重要な役割を果たす。	3.91	(0.85)
32	4, 5人の子どもたちのグループで共に学びあえる授業を、積極的にすすめてほしい。	3.86	(0.81)
11	地域の大人たちが連携しながら、子どもたちの学びを支援すべきである。	3.86	(0.75)
7	授業で使用するための独自の副教材づくりを、これからも積極的にすすめてほしい。	3.81	(0.90)
8	授業を行う先生の人数を増やしてほしい。	3.79	(0.89)
41	一人ひとりの大人が、地域の子どもたちを知ることにより、自らの子育てにも生かすことができると思う。	3.72	(0.81)
30	学校では、毎日宿題を出してもらいたい。	3.71	(0.98)
3	犬山の教育改革に対して、強い関心をもっている。	3.68	(0.86)
1	子どもたちが、地域で行う活動に積極的に参加できるように支援したい。	3.65	(0.76)
9	犬山市の教育改革の情報を、積極的に知ろうと思っている。	3.60	(0.83)
38	子どもにとってゆとりのあるかたちで教育改革をすすめてほしい。	3.57	(0.96)
27	現在の犬山のような教育改革をこれからも積極的にすすめてほしい。	3.43	(0.96)
33	現在の犬山の教育改革は、豊かな社会づくりのための重要な取り組みである。	3.41	(0.87)
18	学校で実施される公開授業には、積極的に参加している。	3.39	(1.12)
36	将来の高校・大学への入試を念頭に置いた教育改革をすすめてほしい。	3.33	(0.97)
43	子どもたちが自宅や地域で学べるように、学校はもっと協力すべきである。	3.31	(0.86)
21	教育改革をすすめることで、子どもたちの望ましい成長が期待できる。	3.29	(0.78)
10	現在の犬山の教育改革は、子どもの健全な成長につながる取り組みである。	3.27	(0.83)
46	現在の犬山の教育改革には別の選択肢があると思う。	3.25	(0.70)
15	これからの教育改革の取り組みに向けて、積極的に学校に参加できる機会がほしい。	3.23	(0.75)
14	教育改革のもとで、子どもが通う学校が良い学びの場となっていると思う。	3.22	(0.85)
22	保護者や地域の大人を、学校での活動の場にもっと参加させてほしい。	3.20	(0.79)
26	教育改革への意見を保護者が出せるように、学校で懇談会をもっと開いてもらいたい。	3.17	(0.80)
17	今の地域は子どもが育つ環境として適切である。	3.13	(0.88)
49	教育改革のもとで、先生たちの教育に対する熱意を感じる。	3.12	(0.85)
40	現在の犬山の教育改革に不安を感じている。	3.09	(0.91)
29	教育改革のもとで、学校に対する信頼感が高まった。	3.04	(0.80)
23	教育改革によって、先生の指導方法が良い方向に変わったと思う。	3.02	(0.83)
42	教育改革によって、子どもたちは学校生活を楽しむようになったと思う。	3.02	(0.74)
37	これまで取り組まれてきた犬山市の教育改革の具体的な内容について知っている。	3.00	(0.90)
25	子どもたちが、地域活動に積極的に参加できるための具体的な取り組みをしている。	2.98	(0.86)
39	教育改革のもとで、先生たちに対する信頼感が高まった。	2.95	(0.75)
6	教育改革によって、先生の指導の力量が高まったと思う。	2.95	(0.86)
19	教育改革による学校の取り組みは、子どもたちの要求に合っている。	2.94	(0.64)
50	今の地域に住む大人たちは、協力して地域の子どもを育てようとしている。	2.88	(0.83)
34	能力別にクラス分けを行う授業を、積極的に実施してほしい。	2.88	(1.16)
47	教育改革のもとで、子どもたちの学習意欲が高まってきていると思う。	2.81	(0.76)
12	教育改革によって、子どもたちの学力がより高まってきていると思う。	2.73	(0.87)
13	詰め込みでもないから、高い学力に到達できることに主眼を置いた教育改革をすすめてほしい。	2.53	(1.02)
44	教育改革については、学校や市の教育委員会に任せていれよう。	2.24	(0.84)

その結果を示した。

まず平均値の高い項目として、「45. 少人数授業を、これからも積極的にすすめてほしい（平均値 4.28）」「24. 30 人学級の実現をすすめてほしい（平均値 4.27）」「28. ティームティーチングをこれからも積極的にすすめてほしい（平均値 4.00）」「31. 先生が個別指導を行えるような授業を、積極的にすすめてほしい（平均値 3.96）」「32. 4, 5 人の子どもたちのグループで共に学びあえる授業を、積極的にすすめてほしい（平均値 3.86）」といった、教師と子ども、あるいは子ども同士の相互の関わり方を改善する方向の授業を望むという内容のものがあげられた。また、「16. 人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい（平均値 4.19）」「20. 自分の子どもには、世間の人たちの幸せのために貢献することを目指して学んでもらいたい（平均値 4.04）」といった、社会との関わりを前提とした人間らしさの育成を内容とした項目も、高い平均値を示した。

他方、低い平均値の項目として、「12. 教育改革によって、子どもたちの学力がより高まってきていると思う（平均値 2.73）」「47. 教育改革のもとで、子どもたちの学習意欲が高まってきていると思う（平均値 2.81）」が見られた。これまでの教育改革が、子どもたちの学習への成果という点では、十分な手ごたえを感じていないことを示す結果であった。

また、「13. 詰め込みでもいいから、高い学力に到達できることに主眼を置いた教育改革をすすめてほしい（平均値 2.53）」「34. 能力別にクラス分けを行う授業を、積極的に実施してほしい（平均値 2.88）」というような、近年の日本の教育文化の風潮としてポジティブな回答がありそうな項目で、むしろ値が低い傾向が見られたのである。

教育改革への保護者の意識をたずねる項目の因子分析 本研究で作成した教育改革への保護者の意識をたずねる 50 項目の回答結果を用いて、因子分析（主成分法，バリマックス回転）を行った。固有値の変動をみたところ、11.62, 4.98, 2.72, 2.34, 1.59, 1.46, 1.37……となり、4 番目と 5 番目に値の急な減衰が見られた。ならびに、因子の解釈の点からも、4 因

子解において、解釈可能な4因子が見られた。このことから、今回の分析では、4因子解を採用した (Table 4)。

この因子分析の結果をもとに、「教育改革の保護者の意識」をたずねる4尺度を作成した。尺度項目として採用したものは、単一因子のみに.40以上の因子負荷量を持つものとした。ただし第4因子に.41という負荷量を持つ項目44については、他の第4因子に負荷量が高い項目と意味内容が異なり、またこの項目を削除したときに第4因子で形成する尺度の α 係

Table 4 「教育改革の保護者の意識」をたずねる50項目の因子分析結果 (4因子解, 主成分法, バリマックス回転)

	I	II	III	IV	共通性	回答者の 平均値
現状の教育改革への肯定的評価 (17項目, $\alpha = .93$)						
問29 教育改革のもとで、学校に対する信頼感が高まった。	.82	.04	.17	.05	.70	3.04
問39 教育改革のもとで、先生たちに対する信頼感が高まった。	.81	.08	.12	.02	.68	2.95
問23 教育改革によって、先生の指導方法が良い方向に変わったと思う。	.78	.10	.09	.00	.62	3.02
問12 教育改革によって、子どもたちの学力がより高まってきていると思う。	.73	.20	.04	-.11	.69	2.73
問47 教育改革のもとで、子どもたちの学習意欲が高まってきていると思う。	.72	.11	.09	-.06	.55	2.81
問14 教育改革のもとで、子どもが通う学校が良い学びの場となっていると思う。	.72	.12	.11	.03	.55	3.22
問49 教育改革のもとで、先生たちの教育に対する熱意を感じる。	.72	.17	.15	-.02	.58	3.12
問19 教育改革による学校の取り組みは、子どもたちの要求に合っている。	.72	.11	.02	.11	.54	2.94
問10 現在の犬山の教育改革は、子どもの健全な成長につながる取り組みである。	.70	.27	.24	.01	.62	3.27
問33 現在の犬山の教育改革は、豊かな社会づくりのための重要な取り組みである。	.68	.12	.39	.07	.63	3.41
問42 教育改革によって、子どもたちは学校生活を楽しくなったと思う。	.68	.06	.09	.14	.49	3.02
問21 教育改革をすすめることで、子どもたちの望ましい成長が期待できる。	.68	.18	.22	.03	.54	3.29
問6 教育改革によって、先生の指導の力量が高まったと思う。	.66	.17	-.02	.00	.47	2.95
問40 現在の犬山の教育改革に不安を感じている。	-.64	.09	-.08	.27	.49	3.09
問50 今の地域に住む大人たちは、協力して地域の子どもを育てようとしている。	.49	.16	-.15	.28	.37	2.88
問46 現在の犬山の教育改革には別の選択肢があると思う。	-.45	.34	-.13	.24	.40	3.25
問17 今の地域は子どもが育つ環境として適切である。	.41	.12	-.15	.20	.25	3.13
教育改革への関与志向の強さ (13項目, $\alpha = .86$)						
問9 犬山市の教育改革の情報を、積極的に知ろうと思っている。	.07	.69	.16	.06	.51	3.60
問15 これからの教育改革の取り組みに向けて、積極的に学校に参加できる機会がほしい。	.16	.67	.16	.14	.51	3.23
問2 教育改革に関して、保護者向けにもっと説明が必要である。	-.22	.65	.05	.15	.49	3.92
問3 犬山の教育改革に対して、強い関心を持っている。	.17	.63	.17	.08	.46	3.68
問26 教育改革への意見を保護者が出せるように、学校で懇談会をもっと開いてもらいたい。	-.07	.63	.10	.17	.44	3.17
問11 地域の大人たちが連携しながら、子どもたちの学びを支援すべきである。	.16	.60	.30	-.13	.50	3.86
問22 保護者や地域の大人を、学校での活動の場にもっと参加させてほしい。	.20	.54	.30	.06	.42	3.20
問1 子どもたちが、地域で行う活動に積極的に参加できるように支援したい。	.23	.51	.02	-.02	.32	3.65
問5 地域で行う活動を通じて子どもたちを知ることは、大人の成長にとっても重要なことだと思う。	.17	.48	.25	.00	.32	3.99
問41 一人ひとりの大人が、地域の子どもたちを知ることにより、自らの子育てにも生かすことができると思	.13	.46	.28	-.11	.32	3.72
問37 これまで取り組まれてきた犬山市の教育改革の具体的な内容について知っている。	.17	.43	-.06	.03	.22	3.00
問25 子どもたちが、地域活動に積極的に参加するための具体的な取り組みをしている。	.28	.42	-.06	.12	.27	2.98
問4 これからの社会をよくするためには教育改革が重要な役割を果たす。	.12	.41	.34	.14	.32	3.91
社会的関係性に注目した授業改善の方向性 (8項目, $\alpha = .80$)						
問45 少人数授業を、これからも積極的にすすめてほしい。	.16	.06	.72	.14	.56	4.28
問32 4, 5人の子どものグループで共に学びあえる授業を、積極的にすすめてほしい。	.08	.05	.66	.18	.48	3.86
問31 先生が個別指導を行えるような授業を、積極的にすすめてほしい。	-.03	.01	.65	.31	.52	3.96
問28 ティームティーチングをこれからも積極的にすすめてほしい。	.25	.17	.63	-.02	.49	4.00
問8 授業を行う先生の人数を増やしてほしい。	.10	.17	.57	.19	.40	3.79
問24 30人学級の実現をすすめてほしい。	.12	.25	.56	-.01	.39	4.27
問16 人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい。	.05	.13	.48	-.08	.26	4.19
問7 授業で使用するための独自の副教材づくりを、これからも積極的にすすめてほしい。	.40	.15	.41	.09	.35	3.81
知識重視の教育改革の推進 (4項目, $\alpha = .63$)						
問13 詰め込みでもいいから、高い学力に到達できることに主眼を置いた教育改革をすすめてほしい。	-.02	.08	-.12	.71	.53	2.53
問36 将来の高校・大学への入試を念頭に置いた教育改革をすすめてほしい。	-.04	.07	.10	.71	.52	3.33
問34 能力別にクラス分けを行う授業を、積極的に実施してほしい。	.03	-.07	.20	.63	.44	2.88
問30 学校では、毎日宿題を出してもらいたい。	.08	.02	.16	.41	.20	3.71
残余項目						
問18 学校で実施される公開授業には、積極的に参加している。	.11	.38	.03	-.04	.16	3.39
問20 自分の子どもには、世間の人たちの幸せのために貢献することを目指して学んでもらいたい。	.20	.31	.30	-.03	.23	4.04
問27 現在の犬山のような教育改革をこれからも積極的にすすめてほしい。	.63	.17	.44	-.03	.62	3.43
問35 学校の教育施設を、もっと充実してほしい。	-.12	.31	.35	.22	.29	3.99
問38 子どもにとってゆとりのあるかたちで教育改革をすすめてほしい。	.29	.09	.28	-.23	.22	3.57
問43 子どもたちが自宅や地域で学べるように、学校はもっと協力すべきである。	-.05	.15	.29	.35	.23	3.31
問44 教育改革については、学校や市の教育委員会に任せてほしい。	.35	-.37	-.06	.41	.43	2.24
問48 自分の子どもには、自分自身の幸福を実現するために学んでもらいたい。	.04	.16	.09	.36	.17	3.92
寄与率 (%)	18.49	10.43	8.90	5.50		

数が上昇するという2点から、第4因子に該当する尺度から外した。各因子に対応する尺度項目を総称する名前として、それぞれの意味内容から、「現状の教育改革への肯定的評価 (17項目)」、「教育改革への関与志向の強さ (13項目)」、「社会的関係性に注目した授業改善の方向性 (8項目)」、「知識重視の教育改革の推進 (4項目)」と命名した。尺度としての信頼性係数 (α 係数) は、順に、.93, .85, .80, .63であった。以下省略するときは、「肯定的評価」尺度、「関与志向」尺度、「授業改善」尺度、「知識重視」尺度と記述する。

変数間の相関 教育改革に対する保護者の意識に関する4尺度と、回答者の年齢、PTAの役員経験年数、犬山市居住年数、それと子どもの構成との相関係数を算出した (Table 5)。ここでいう子どもの構成とは、①小学生はいるが中学生はいない、②小学生、中学生ともにいる、③中学生はいるが小学生はいない、の3群に分けた順序尺度として扱ったデータである。

まず、保護者の意識の4尺度間では、「関与志向」尺度と他の3尺度との間に正の相関 (.16~.45) が見られた。また「授業改善」尺度と「肯定的評価」尺度ならびに「知識重視」尺度との間にも正の相関 (.39と.21) が見られた。

回答者の年齢、子どもの構成、PTAの役員経験年数、犬山市居住年数のそれぞれの間には、いずれも .15~.47の正の相関が見られた。

保護者の意識に関する4尺度と、回答者の年齢、PTAの役員経験年数、犬山市居住年数、子どもの構成、については、子どもの構成と「肯定的評

Table 5 教育改革への意識に関する4尺度ならびに回答者の年齢、子どもの構成、PTAの役員経験年数、犬山市居住年数との相関関係

	肯定的評価	関与志向	授業改善	知識重視	年齢	PTA年数	犬山年数
現状の教育改革への肯定的評価							
教育改革への関与志向の強さ	.35 ***						
社会的関係性に注目した授業改善の方向性	.39 ***	.45 ***					
知識重視の教育改革の推進	.03	.16 **	.21 ***				
年齢	-.08	.07	-.08	-.06			
PTAの役員経験年数	-.03	.08	-.10 *	.02	.23 ***		
犬山市居住年数	-.06	.00	-.06	-.09	.33 ***	.15 **	
子どもの構成	-.13 *	-.06	-.15 **	.01	.47 ***	.31 ***	.15 **

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

価」尺度ならびに「授業改善」尺度との間に有意な負の相関がみられた。ただし、その値は、 $-.13$ 、 $-.15$ と高いものではなかった。また「授業改善」尺度とPTA役員経験との間に、低いながら $-.10$ の有意な負の相関がみられた。

子どもの構成のタイプ別に見た教育改革に対する保護者の意識の違い変数間の相関で用いた属性の変数のうち、特に、家族内の子どもの構成が、教育改革に対する保護者の意識に対して、弱いながらも影響していることが示された。子どもの構成のタイプは、①小学生はいるが中学生はいない、②小学生、中学生ともにいる、③中学生はいるが小学生はいない、といった3タイプの名義尺度によって成り立つデータであった。

子どもの構成のタイプの違いと教育改革に対する保護者の意識の関係をさらに検討するために、子どもの構成タイプを独立変数、教育改革への意識の4尺度をそれぞれ従属変数とした一要因分散分析を行った (Table 6) 結果、「肯定的評価」尺度と「授業改善」尺度を従属変数としたときに主効果を示した。多重比較 (Scheffe法) の結果、「肯定的評価」尺度と「授業改善」尺度のいずれにおいても、①小学生はいるが中学生はいない群の方が、③中学生はいるが小学生はいない群よりも有意に高い値であることが明らかとなった。

考 察

本研究では、教育改革の開始から4年を経過した犬山市を対象に、市内の小中学校に通う子どもを持つ保護者が、改革や教育的諸課題に対してい

Table 6 子どもの構成の3群における教育改革に対する意識4尺度の得点 (一要因分散分析の結果)

	全体	子どもの構成			子どもの構成の群別の分散分析	多重比較 (Scheffe法)
		①小学生はいるが中学生はいない	②小学生、中学生ともにいる	③中学生はいるが小学生はいない		
現状の教育改革への肯定的評価	51.46 (9.59)	52.49 (9.00)	51.16 (9.57)	48.90 (10.56)	F(2, 393)=3.36	* ①>③
教育改革への関与志向の強さ	45.90 (6.25)	46.20 (5.86)	45.71 (6.34)	45.17 (6.43)	F(2, 401)=0.72	
社会的関係性に注目した授業改善の方向性	32.14 (4.33)	32.77 (3.97)	31.98 (4.42)	30.97 (4.81)	F(2, 401)=4.36	* ①>③
知識重視の教育改革の推進	12.45 (2.86)	12.36 (2.73)	12.51 (2.89)	12.41 (2.95)	F(2, 414)=0.13	

かなる意識を持っているかを明らかにするための調査を実施した。その分析結果を踏まえながら、保護者の意識をまとめてみたい。

第1因子より：現状の教育改革への評価 犬山市の教育改革の取り組みを保護者がどのように評価しているかは、第1因子に含まれる項目の平均値からうかがうことができる。第1因子に含まれる項目は、「現状の教育改革への肯定的評価」に関する項目である。回答の平均値はほぼ3.00点前後にある。すなわち、概ね中立的な評価であるといえる。

項目別に評定結果を見ると、さらに詳細な実態が浮かび上がる。最も高い値を示したのは、「33. 現在の犬山の教育改革は、豊かな社会づくりのための重要な取り組みである」の3.41で、「21. 改革をすすめることで、子どもたちの望ましい成長が期待できる」(平均値3.29)、「10. 現在の犬山の教育改革は、子どもの健全な成長につながる取り組みである」(平均値3.27)と続く。このことは、犬山市の教育改革の取り組みが、全体として、保護者たちに肯定的な評価をもって期待されていることを示すものである。ただし、そのあとに「46. 現在の犬山の教育改革には別の選択肢があると思う」という逆転項目が、3.25と続いている。教育改革に対する肯定的な期待の一方で、具体的な改革の方法としては、他にも選択肢があるのではないかという思いがある様子もうかがえる。

また第1因子に含まれる項目で、低い平均値を示したものに、「12. 教育改革によって、子どもたちの学力がより高まってきていると思う」(平均値2.73)、「47. 教育改革のもとで、子どもたちの学習意欲が高まってきていると思う」(平均値2.81)がある。子どもたちの学習意欲や学力が、教育改革を通じて実際に伸びたと感じ取れるかという、効果の手ごたえの側面については、保護者たちの確信がまだ十分ではないという現状が示されている。

第2因子より：教育改革への関わりを志向する保護者 第2因子は、「教育改革への関与志向の強さ」と解釈可能である。ここに含まれる項目は、犬山市の教育改革への関心の高さや、実際に学校の教育に参加することを希望したり、地域や保護者が教育に参加することの重要性を認識する

程度を問う項目からなっている。各項目の平均値を見ると、ほとんどの項目で3.00点以上を示していることがわかる。

「9. 犬山市の教育改革の情報を、積極的に知ろうと思っている」(平均値3.60), 「2. 教育改革に関して、保護者向けにもっと説明が必要である」(平均値3.92), 「3. 犬山の教育改革に対して、強い関心をもっている」(平均値3.68)など、改革への関与の意欲に関する項目への回答の平均値は3.50を越えている。また、「11. 地域の大人たちが連携しながら、子どもたちの学びを支援すべきである」(平均値3.86), 「1. 子どもたちが、地域で行う活動に積極的に参加できるように支援したい」(平均値3.65), など、行動レベルでの関与志向性を示す項目でも高い平均値が得られた。さらに、「5. 地域活動で行う活動を通じて子どもたちを知ることは、大人の成長にとっても重要なことだと思う」(平均値3.99), 「41. 一人ひとりの大人が、地域の子どもたちを知るにより、自らの子育てにも生かすことができると思う」(平均値3.72)など、地域全体で子どもの学びを育てることの幅広い意義について肯定的に捉える強い傾向性を見ることができた。また、この因子には「4. これからの社会をよくするためには教育改革が重要な役割を果たす」(平均値3.91)という項目も含まれており、教育改革の意義が幅広く認識されていることも示されたのである。

第3因子より：教師と子ども、子ども相互の社会的関係性を改善した授業を求める保護者 質問した全50項目への保護者の回答の平均値をみると、「45. 少人数授業を、これからも積極的にすすめてほしい」(平均値4.28), 「24. 30人学級の実現をすすめてほしい」(平均値4.27), 「28. ティームティーチングをこれからも積極的にすすめてほしい」(平均値4.00)といった項目の得点がきわめて高い。これらは、因子分析の結果から、第3因子からつくられた「社会的関係性に注目した授業改善の方向性」尺度に含まれる項目である。「社会的関係性に注目した授業改善の方向性」尺度に含まれる8項目をみると、最も平均値の低い項目でさえ、「8. 授業を行う先生の人数を増やしてほしい」の3.79である。

このことから、保護者の多くは、ティーチングスタッフの充実という、犬山市が行っている授業改善のための条件整備を積極的に評価しており、

それが少人数授業，ティームティーチング，少人数学級という形で実現されることを望んでいるといえよう。また，「32. 4, 5人の子どもたちのグループで共に学びあえる授業を，積極的にすすめてほしい」（平均値 3.86）の結果のように，授業における子ども同士の相互作用の活用に対しても肯定的な受け止め方をしている様子がかがえる。さらに，副教本作成への肯定的評価（質問項目 7，平均値 3.81）にとどまらず，「16. 人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい」（平均値 4.19）のように，カリキュラムの本質的な充実まで求めているのである。

第 4 因子より：能力別指導への抵抗と入試を意識した授業の希望 「知識重視の教育改革の推進」尺度に含まれる 4 項目のうち，平均値の低い項目は，「13. 詰め込みでもいいから，高い学力に到達できることに主眼を置いた教育改革をすすめてほしい」（平均値 2.53），「34. 能力別にクラス分けを行う授業を，積極的に実施してほしい」（平均値 2.88）といったものがある。犬山市では，受身的学習過程による，教科内容の量的習得のみを目指すような授業改革を志向しておらず，その改革の内容はここに見る保護者の意識との間に大きな矛盾はない。

一方，同じ第 4 因子の項目の中でも，「36. 将来の高校・大学への入試を念頭に置いた教育改革をすすめてほしい」に着目すると，平均値は 3.33 と，中立ポイントの 3.00 よりもやや高い。すなわち，入試を念頭に置いた教科内容の習得を求める傾向にあることがわかる。この項目の第 4 因子への因子負荷量は高く，入試への対応は詰め込みや能力別指導などと共通したイメージが持たれやすい現状があるようである。ここには，求める学力に対する保護者の戸惑いも反映されていよう。ただ，「30. 学校では，毎日宿題を出してもらいたい」（平均値 3.71）の結果とあわせて考えると，学びにおける厳しさを求めているという解釈も可能である。

残余項目より 残余項目をみると，平均値の高いものとして，「48. 自分の子どもには，自分自身の幸福を実現するために学んでもらいたい」（平均値 3.92）があるが，それに加えて，「16. 人間としての生き方を学ぶための教育改革をすすめてほしい」（平均値 4.19），「20. 自分の子どもには，世間の人たちの幸せのために貢献することを目指して学んでもらいたい

たい」(平均値 4.04) といった結果も注目される。すなわち、学校における学習は、個人にとどまるものではなく、次代の社会を担う者を育てる機能を持つものだという、きわめて健全な考えが示されているのである。

家族における子どもの構成別にみる保護者の意識の違い 家族内の子どもの構成の違いによって、教育改革への意識の違いが見られた。具体的には、「現状の教育改革への肯定的評価」のあり方と、「社会的関係性に注目した授業改善の方向性」を求める姿勢は、①小学生はいるが中学生はいない保護者の方が、③中学生はいるが小学生はいない保護者よりも積極的であることが明らかとなった。この結果を言い換えれば、中学生以上を子どもに持つ親は、犬山市の教育改革に対して、肯定的な印象を持つことが相対的に少ないということである。

保護者が求める授業改革として、「36. 将来の高校・大学への入試を念頭に置いた教育改革をすすめてほしい」という思いがうかがえることは先述したとおりである。入試への親の意識が強くなることで、この結果の一因である可能性がある。今回のデータをもとに再分析したところ、先の①と③の各群の項目 36 の平均値は、3.21 と 3.54 (標準偏差はそれぞれ 1.02 と 0.82, t 検定の結果, $t=2.43$, $p<.05$) で、③中学生はいるが小学生はいない保護者の方が、入試を念頭に置いた教育改革をより多く求める傾向にある。ただ、犬山市が推進する授業改善の教育改革と、入試を念頭に置いた教育改革とが相容れないものであると認識しているわけではなく、項目 36 と第 3 因子との相関を求めたところ、.16 という低い正の相関(統計的には有意な正の相関)であることが示された。また、心理的離乳期としての中学生と親のかかわりの中で、教育改革そのものへの関心が間接的なものとなっている可能性もないではない。いずれにせよ、今後検討すべき課題がここに残されている。

ま と め

犬山市の教育改革に対して、市内の小、中学校に通う子どもを持つ保護者は、次のような意識を持っているとまとめることができる。

(1) 教育改革を目指した犬山市の姿勢に対しては肯定的であるが、これまでの改革によって子どもの学力や学習意欲の向上があったかという点については十分な実感を持っていない。(2) 教育改革の情報を学校側に求めており、また保護者や地域が改革に向けた活動の機会を持つことの重要性を強く感じ、活動への意欲も高い。(3) 現状の教育改革で導入されている少人数授業やチームティーチングに対して支持的である。(4) 詰め込み教育や能力別指導には否定的であるが、入試を踏まえた教育改革を必要とする意見がある。(5) 社会との関わりを十分意識した教育目標観を持っている。(6) 小学生以下のみの子どもを持つ保護者の方が、中学生以上のみの子どもを持つ保護者よりも、教育改革をめざした犬山市の姿勢に対して肯定的であり、現状の教育改革のもとで実施している授業方法に支持的である。

最後に、補足的な記述となるが、今回の50項目には、平成16年度(2004年度)から犬山市が導入した二学期制についてたずねる項目を含めていなかった。今回の調査では、質問紙の自由記述欄に、二学期制に対する記述が多く見られた。その回答のほとんどは、二学期制に対する疑問であった。そして、理解のための情報提供の不足を指摘する声が多かった。第2因子の結果で言及した「2. 教育改革に関して、保護者向けにもっと説明が必要である」という項目への結果も同様のメッセージを含んでいる。改革のねらいと内容について、教育委員会では犬山シンポジウムを開催し、各小中学校では説明会や資料配布などを通して周知を図ってきたであろうが、学びの共同体の形成のためには、周知の手続きを踏むということに加えて、それが実際に保護者、地域に届いたかどうかへの十分な配慮が不可欠だといえよう。

引用文献

- 犬山市教育委員会編 2003 犬山発 21世紀日本の教育改革 黎明書房
 谷口篤・杉江修治・仲律子 2004 犬山市の教育改革に関する保護者の意識と評価 — 改革2年目と3年目の資料からの検討 中京大学教養論叢, 45-3, 135-152.

仲律子・杉江修治 2002 少人数授業, ティームティーチングによる授業改善の
実態—子ども, 教師, 保護者への調査から 中京大学教養論叢, 43-4, 153-179.

(受理日 平成17年4月13日)